

薬学部

薬学科

履修の手引と手続 (薬学科)

I 授業科目について

薬学部薬学科における授業科目は、全学共通基盤科目、基本科目（講義・演習）、専門科目（講義・演習・実習）及び関連科目からなっている。

上記の科目の中にはリベラルアーツ教育およびデータサイエンス教育に該当する科目がある。詳細は本便覧[リベラルアーツセンター](#)、[数理データサイエンスセンター](#)の項目を確認すること。

II 授業科目の単位と認定

本学では単位制が採用されている。単位制とは、一つ一つの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験その他の方法により学習評価をしたうえでその単位を認定する制度である（学則第 40, 41 条参照）。

単位認定の評価は、S・A・B・C・P・Nにより単位を修得したことを示す。（学則第 32～36, 42 条参照）

III 進級基準

1. 当該学年に配分されている必修科目（基本科目及び専門必修科目）の単位を修得しなければ進級できない。ただし、未修得必修科目数が 3 科目以下の者の進級を認めることがある。なお、未修得必修科目数とは、下級学年の未修得必修科目数をも加算されたものをいう。また、3 年次から 4 年次への進級にあたっては、関連科目（9 単位以上）を必ず修得していなくてはならない。

進級の詳細については、「進級判定の対象となる科目」の表（第 1 表）の進級条件を参照のこと。

2. 正当な理由なく複数回留年したものについては、学則に従い適当な処置を講ずるものとする。

3. 進級判定の対象となる科目

第1表

		1年→2年	2年→3年	3年→4年	4年→5年	5年→6年
		科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
基本科目	講義	コミュニケーションのための基礎英語A コミュニケーションのための基礎英語B				
	演習	フレッシュマンセミナー(薬学)A フレッシュマンセミナー(薬学)B				
専門科目	講義	薬学概論 物理化学A 物理化学B 無機化学 基礎有機化学 有機化学A 生物学A 生物学B 細胞生理学 生理学A 解剖学 微生物学	物理薬剤学A 物理薬剤学B 分析化学A 分析化学B 有機化学B 有機化学C 生薬学 生理学B 生化学A 生化学B 免疫学 病原微生物学 基礎栄養学 基礎薬理学 薬理学A 病態学A	医薬品化学 漢方薬 生化学C 公衆衛生学A 毒性学A 毒性学B 薬理学B 薬理学C 生物薬剤学 薬物動態学 病態学B 病態学C 薬物治療学A 薬物治療学B 調剤処方学 社会と薬学	公衆衛生学B 製剤学 医療栄養学 薬物治療学C 医薬品情報学 医薬品開発・治験論 薬剤師関係法制度概論 コミュニティファーマシー論	
	演習		薬学英语入門 薬学総合演習A	実用薬学英语 薬学総合演習B 生物有機化学演習 生物統計学演習	コミュニケーション体験演習 薬学総合演習C 薬物治療演習 調剤処方演習 臨床実習前講義A 臨床実習前講義B	臨床後演習
	実習	薬学実習A 薬学実習B	薬学実習C 薬学実習D	薬学実習E 薬学実習F	臨床前実習A 臨床前実習B	薬局実習 病院実習
進級条件		1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。	1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。ただし、薬学総合演習Aは修得のこと。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。	1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。ただし、薬学総合演習Bは修得のこと。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。 3) 関連科目9単位修得のこと。	1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。	1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。

IV 卒業について

1. 卒業可能最低科目数及び単位数は第2表に示すとおりである。

第2表

系列		項目	科目数	単位数
全学共通基盤科目			3	3
基本科目			4	6
専門科目	必修		79	160
	選択*		4以上	8
関連科目			5以上	9
計			95以上	186

※選択科目のうち、アドバンスト薬学分野の科目を1科目2単位含むこと。

V 授業科目の学年配当と修得すべき単位数

薬学科では、豊かな人間性を有し、地域に貢献する薬剤師としての資質・能力の醸成のため、「全学共通基盤科目」、「基本科目」、「専門科目」、「関連科目」を配置し、体系的なカリキュラムを編成している。

1. 全学共通基盤科目

全学共通基盤科目は、全学部生が履修する必修科目である。多様な人々の言葉に耳を傾け、自分の考えを伝えながら交流することによってお互いを理解し、尊重し皆と協力して新しい価値を創り出し、いこうとする力（協創力）を身につけることを目的としている。

また、全学共通基盤科目はすべて必修科目であり、次のとおり履修の条件がある。

- (1) 「協創力体験演習Ⅱ」を履修するためには、「協創力体験演習Ⅰ」を修得していなければならない。
- (2) 「協創力実践演習」を履修するためには、「協創力体験演習Ⅱ」を修得していなければならない。

学年配当表

[薬学科]

第3表

※単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授 業 科 目	薬学科分類 コード	年次及び単位数				最低取得 単位数	備 考
			1年	2年	3年	4年		
全学共通基盤科目	協創力体験演習Ⅰ	C01-1_1	①				3単位	
	協創力体験演習Ⅱ	C01-1_2		①				
	協創力実践演習	C01-1_3			①			

※本科目は進級条件には含まない。

2. 基本科目

基本科目は、大学における学習方法や、学生生活の指導を通して自立した社会人としての意識づけを行うこと、及び英語の修得にあてられる（第4表）。

- (1) 基本科目は、すべて必修科目であるから必ず修得しなければならない。
- (2) 基本科目は1年次に履修するものとする。

学年配当表

〔薬学科〕

第4表

※単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授業科目	薬学科分類 コード	年次及び単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	6年
基本 科目	コミュニケーションのための基礎英語A	LA1-1_1	②					
	コミュニケーションのための基礎英語B	LA1-1_2	②					
	フレッシュマンセミナー(薬学)A	GE1-1_1	①					
	フレッシュマンセミナー(薬学)B	GE1-1_2	①					

3. 専門科目

専門科目は、高い専門性を有し、高齢者医療、在宅医療を含む地域の医療の場で活躍し得る薬剤師を養成するために必要な科目として配置されている。基礎薬学分野には、医薬品を化学物質として理解するための科目および生体の仕組みの基礎を理解するための科目、衛生薬学分野には、環境と健康の関連を理解するための科目、医療薬学分野には疾病と治療法を理解するための科目、および医薬品を管理し、投薬することに関わる知識・技能を修得するための科目、臨床薬学分野には薬剤師として疾病の予防や患者の治療を行う能力を得るための科目、アドバンスト薬学分野には、薬剤師としてのより高い専門性を獲得するための科目および語学・教養、実験・研究、総合領域には、医療人・薬剤師としての素養を養い、自覚をそだてるための科目および修得した知識・技能を広範囲な領域で応用・展開するための科目を配置している。

専門科目は、必修科目、選択必修科目、および選択科目からなる。専門必修科目、及び専門選択科目・専門選択必修科目の学年別配当数は第5表、各科目の学年配当は第6表のとおりである。

- (1) 卒業するために、専門必修科目は79科目(160単位)を修得しなければならない。
 - (2) 卒業するために、専門選択科目は4科目以上(8単位以上)を修得しなければならない。
- ただし、アドバンスト薬学分野の科目を1科目2単位含むこと。

第5表

年次	必修		選択必修		選択	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年	14	24	0	0	1	2
2年	20	38	0	0	2	4
3年	22	40	0	0	6	10
2年～3年のいずれか	0	0	0	0	1	1
4年	16	24	1	2	1	1
2年～4年のいずれか	0	0	0	0	1	1
5年	3	21	0	0	0	0
6年	3	3	0	0	1	2
1年～6年のいずれか	0	0	0	0	3	6
4年～6年のいずれか	0	0	3	6	8	13
4年～6年	1	10	0	0	0	0
計	79	160	4	8	24	40

学年配当表

〔薬学科〕

第 6 表

※単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

□印を付してある科目は選択必修を示し、これらのうち 1 科目を選択する。

なお、選択必修科目「栄養・薬学マネジメント論」は 4 年次のみに配当する。

系列	分野	科目名	薬学科分類 コード	年次及び単位数					
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
専 門 科 目	語 学 ・ 教 養	薬学英語入門	LA 1-1_5		①				
		実用薬学英語	LA 1-1_6			①			
		海外薬学英語研修 A	LA 1-1_7	2					
		海外薬学英語研修 B	LA 1-1_8	2					
		海外薬学英語研修 C	LA 1-1_9	2					
	総 合 領 域	薬学概論	GE 1-1_3	①					
		コミュニケーション体験演習	GE 1-1_4				①		
		薬学総合演習 A	GE 2-1_5		①				
		薬学総合演習 B	GE 2-2_6			①			
		薬学総合演習 C	GE 2-3_7				①		
		薬学総合演習 D	GE 2-4_8						①
		統合演習	GE 2-4_9						①
	基 礎 薬 学 分 野	物 理 系	物理化学 A	PS 1-1_3	①				
			物理化学 B	PS 1-1_4	②				
			物理薬剤学 A	PS 1-2_5		②			
			物理薬剤学 B	PS 1-2_6		②			
			分析化学 A	PS 1-2_7		②			
			分析化学 B	PS 1-2_8		②			
			物理化学演習	PS 1-3_9				1	
	化 学 系	無機化学	CM 1-1_1	②					
基礎有機化学		CM 1-1_2	①						
有機化学 A		CM 1-1_3	②						
有機化学 B		CM 1-2_4		②					

系列	分野	科目名	薬学科分類 コード	年次及び単位数					
				1年	2年	3年	4年	5年	6年
専門科目	化学系	有機化学C	CM 1-3_5		②				
		有機化学演習	CM 1-2_6		1				
		生物有機化学演習	CM 1-3_7			①			
		医薬品化学	CM 1-3_8			②			
		生薬学	CM 2-1_9		②				
		天然物化学	CM 2-1_10			2			
	基礎薬学分野	生物系	生物学A	BI 1-1_1	①				
			生物学B	BI 1-1_2	②				
			総合生物	BI 1-2_3		2			
			細胞生理学	BI 1-1_4	②				
			生理学A	BI 1-1_5	②				
			生理学B	BI 1-2_6		②			
			生化学A	BI 1-2_7		②			
		物系	生化学B	BI 1-3_8		②			
			生化学C	BI 1-4_9			②		
			解剖学	BI 2-1_10	②				
			免疫学	BI 3-1_11		②			
			微生物学	BI 4-1_12	②				
			病原微生物学	BI 4-2_13		②			
			衛生薬学分野	基礎栄養学	HE 1-1_1		②		
	公衆衛生学A	HE 1-1_2				②			
	公衆衛生学B	HE 1-1_3					②		
	公衆衛生学C	HE 1-1_4				2			
	毒性学A	HE 2-1_5				②			
	毒性学B	HE 2-2_6				②			
	放射化学実習	HE 2-3_7				1			
薬毒物分析	HE 2-3_8						2		

系列	分野	科目名	薬学科分類 コード	年次及び単位数					
				1年	2年	3年	4年	5年	6年
専 門 科 目	医 療 薬 学 分 野	基礎薬理学	MD 1-1_1		②				
		薬理学A	MD 1-1_2		②				
		薬理学B	MD 1-2_3			②			
		薬理学C	MD 1-3_4			②			
		生物薬剤学	MD 2-1_5			②			
		薬物動態学	MD 2-2_6			②			
		製剤学	MD 2-3_7				②		
		医療における栄養	MD 3-1_8	2					
		医療における食品学	MD 3-1_9		2				
		食品機能学	MD 3-1_10			2			
		食品調理加工学実習	MD 3-2_11			1			
		病態学A	MD 3-1_12		②				
		病態学B	MD 3-2_13			②			
		病態学C	MD 3-3_14			②			
		ライフステージ栄養学	MD 3-3_15			2			
		医療栄養学	MD 3-4_17				②		
		医療栄養学演習	MD 3-4_18					1	
		薬物治療学A	MD 3-2_19			②			
		薬物治療学B	MD 3-3_20			②			
		薬物治療学C	MD 3-4_21				②		
		薬物治療演習	MD 3-4_22				①		
		生物統計学演習	MD 4-1_23			①			
		臨 床 薬 学 分 野	調剤処方学	CL 1-1_1			②		
	調剤処方演習		CL 1-2_2				①		
	医薬品情報学		CL 1-2_3				②		
	医薬品開発・治験論		CL 2-1_4				①		
薬剤師関係法制度概論	CL 2-1_5					②			
社会と薬学	CL 3-1_6				②				

系列	分野	科目名	薬学科分類 コード	年次及び単位数					
				1年	2年	3年	4年	5年	6年
専 門 科 目	臨床薬学 分野	コミュニティファーマシー論	CL 3-2_7				①		
		コミュニティファーマシーイ ンターンシップ	CL 3-2_8				1		
		社会保障制度と薬学経済	CL 3-3_9						①
		看護・介護・社会福祉演習	CL 4-1_10			1			
		臨床心理学	CL 4-1_11			2			
		臨床検査学	CL 4-1_12					2	
		緩和医療学	CL 4-1_14					2	
		ハーブ論	CL 4-1_15					2	
		医薬品・食品・化粧品マーケ ティング論	CL 5-2_18					2	
	アド バンスト薬学 分野	地域医療論	AP 1-1_1					2	
		医療薬学論	AP 1-2_2					2	
		法医薬学実務論	AP 1-3_3					2	
		栄養・薬学マネジメント論	AP 1-4_4				2		
	実 習 ・ 研 究	薬学実習 A	TR 1-1_1	②					
		薬学実習 B	TR 1-2_2	②					
		薬学実習 C	TR 1-3_3		②				
		薬学実習 D	TR 1-4_4		②				
		薬学実習 E	TR 1-5_5			②			
		薬学実習 F	TR 1-6_6			②			
		臨床実習前講義 A	TR 2-1_7				②		
		臨床実習前講義 B	TR 2-2_8				②		
		臨床前実習 A	TR 2-2_9				①		
		臨床前実習 B	TR 2-2_10				①		
薬局実習		TR 2-3_11					⑩		
病院実習		TR 2-3_12					⑩		
臨床後演習		TR 2-3_13					①		
選択実験		RS 1-1_1			1				
卒業研究	RS 1-2_2					⑩			

栄養・薬学アドバンストコースについて

栄養・薬学アドバンストコースを修得するためには、第7表に示されたすべての科目の単位を修得しなければならない。

また、3年次に開講の「食品調理加工学実習」を履修する者は、1年次の「医療における栄養」、2年次の「医療における食品学」と「基礎栄養学」(必修)の単位修得者とする。

なお、3、4年次開講の科目については、履修制限を設ける場合がある。

第7表

年次	科目名	単位数	年次	科目名	単位数
1年	医療における栄養	2	3年	食品調理加工学実習	1
2年	医療における食品学	2	4年	栄養・薬学マネジメント論	2
3年	食品機能学	2	4年	医療栄養学演習	1
3年	ライフステージ栄養学	2			

4. 関連科目

関連科目は、幅広い人間性を養う上で有用な科目であり、教養科目（人文系、社会系、自然系）外国語科目、体育関係科目から構成されている（第8表）。

関連科目は3年次終了時までまでに9単位以上を修得しなければならない。

※外国語科目において母国語の履修は認めない。ただし、特別な事情がある場合はその限りではない。その場合は学部事務室に相談すること。

学年配当表

〔薬学科〕

第8表

系列	授 業 科 目	年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
関 連 科 目	基礎化学計算	1					
	基礎物理学	1					
	データ・リサーチリテラシー論	2					
	スポーツ医学	2					
	生涯スポーツ論	2					
	倫理とは何か	2					
	現代社会と法Ⅰ（日本国憲法）	2					
	現代社会と法Ⅱ（国際法を含む）	2					
	人と文化	2					
	社会学A	2					
	心理学Ⅰ	2					
	近世の日本史Ⅰ	2					
	日本の文学Ⅰ	2					
	地域と風土	2					
	世界の中の日本A	2					
	世界の中の日本B	2					
	地域と大学	2					
	スタートアップ企業論入門	2					
	グローバル社会と女性	2					
	女性とダイバーシティ(女性の働き方)	2					
女性とキャリアデザイン(女性と企業)	2						
自校史研究(建学の精神と大学の理念)	2						

系列	授 業 科 目	年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
関 連 科 目	国際グローバル研修	2					
	海外研修Ⅰ	2					
	海外研修Ⅱ	2					
	海外研修Ⅲ	2					
	海外研修Ⅳ	2					
	Oral EnglishⅠA	2					
	Oral EnglishⅠB	2					
	資格英語ⅠA	2					
	資格英語ⅠB	2					
	留学英語A	2					
	留学英語B	2					
	English CommunicationⅠA	2					
	English CommunicationⅠB	2					
	ドイツ語ⅠA	2					
	ドイツ語ⅠB	2					
	ドイツ語ⅡA		2				
	ドイツ語ⅡB		2				
	中国語ⅠA	2					
	中国語ⅠB	2					
	中国語ⅡA		2				
	中国語ⅡB		2				
	スペイン語A	2					
	スペイン語B	2					
	韓国語ⅠA	2					
	韓国語ⅠB	2					
	韓国語ⅡA		2				
	韓国語ⅡB		2				
	フランス語ⅠA	2					
	フランス語ⅠB	2					
	フランス語ⅡA		2				
フランス語ⅡB		2					

系列	授 業 科 目	年次及び単位数					
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
関 連 科 目	ハンガリー語 A	2					
	ハンガリー語 B	2					
	ポーランド語 A	2					
	ポーランド語 B	2					
	マレー語 A	2					
	マレー語 B	2					
	健康スポーツ I A	1					
	健康スポーツ I B	1					
	健康スポーツ II A	1					
	健康スポーツ II B	1					
	情報科学 (演習含む)		2				
	データサイエンス入門	2					
	データサイエンスと数理統計				2		
	機械学習と AI				2		
	データサイエンス特別講義 I				2		
	データサイエンス特別講義 II				2		
	応用 AI プログラミング				2		
	社会科学におけるデータサイエンス				2		
	ゲーム理論と AI				2		
	定量的政策評価				2		
	金融データ分析				2		
	文化研究 I	1					
	文化研究 II	1					
	教養英語 A	2					
	教養英語 B	2					
	世界の文学	2					
	デザイン思考で取り組む地域課題	2					
数学とは何だろうか	2						
統計学で見る世界	2						
コンピュータとプログラミングの世界	2						

データサイエンス教育プログラムについて

数理・データサイエンスセンターが提供する関連科目「データサイエンス入門」を基礎に、薬学部薬学科で学ぶ科目と合わせて有機的にデータサイエンスの素養を身につけていくことができる。このデータサイエンス教育プログラムを修了した学生には、データサイエンスの基礎的素養を身につけたことに対して修了証が授与される。詳細は数理・データサイエンスセンターの便覧を参照すること。

5. 自由科目

第9表に示した科目は自由科目であり、卒業に必要な単位数には算入されない。

学年配当表

[薬学科]

第9表

系列	授 業 科 目	年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
	医薬品情報・マネジメント概論A			2	
	医薬品情報・マネジメント概論B			2	

VI 授業科目の履修申請

履修する授業科目は、毎学年所定の期間に履修申請をしなければならない。この履修申請は、年間の受講計画をたて、単位を修得する意思表示をする重要な手続きである。履修申請を間違えたために、授業科目の履修ができなくなり、その結果進級はもとより、卒業ができなくなる場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して、誤りのないように履修申請すること。

－履修申請時の注意事項－

- (1) 当該学部・学科の授業時間割表を参照し、受講したい授業科目の曜日、時限、コマ・コード^{※1}、授業科目名、開講期間、担当教員等を確認の上、申請を行なうこと。
- (2) 履修申請の期間及び方法は、各年次初めのオリエンテーションで説明をするので、確認をすること。
- (3) 春・秋学期ともに、履修内容照合・変更期間を設けているので、間違いなく申請した授業科目が登録されているかを確認すること。登録に誤りがある場合は、この期間中に学部事務室に申し出ること。
- (4) 履修内容照合・変更期間以外で、登録した授業科目の履修変更（追加・取消等）は認められない。
- (5) 履修申請（登録）をしていない授業科目は、受講しても単位は認められない。
- (6) 同一曜日の同一時限に開講されている授業科目を複数履修申請することはできない。
- (7) 単位を修得した授業科目は、再度履修することはできない。
- (8) 計画的な学習を促すため、授業以外の学習時間を確保することを目的として、各年次には学期毎に登録ができる履修単位の上限が決まっているので、留意して履修申請をすること。
- (9) 指定された期日までに履修申請を行わない場合は、学業の意思なしとみなし、**懲戒**となることがある。

※1 コマ・コードとは、授業時間割表に授業科目名等と共に記載されている番号で、その時限の授業科目の固有の番号である。

履修上の注意

1. 実験・実習科目について

実験・実習科目は、全て出席しなければならない。ただし、各実験・実習において5分の4以上出席した者には、単位の修得を認めることがある。

2. 上位学年に配分されている科目について

上位学年に配分されている科目は履修できない。ただし、留年者にあつては、未修得科目の再履修を最優先とするが、直上位学年に配分されている専門科目（必修）の講義の履修を認めることがある（上位学年特別単位修得制度）。

- (1) 直上位学年に配分されている科目が履修できるのは、留年したその年度のみに限る（前年度以前に留年した学生が進級した場合、上位学年の科目を履修することは認めない）。
- (2) 専門科目の演習および実習の履修は認めない。
- (3) 履修可能な科目数の上限は、以下の計算式によるものとする。

直上位学年の科目数－留年学年以前の未修得科目数

- (4) 成績評価は、正規の学年と同時期かつ同条件にて行われる。ただし、この成績評価は、その年度の進級判定には反映されない。
- (5) 履修した科目の単位修得後、その学年に進級した場合、再度の履修は認めない。ただし、聴講は認める。
- (6) 履修にあたっては、当該科目を担当する教員の許可を必要とする。
- (7) 履修希望者は、指定された期日に上位学年科目履修願を提出のうえ履修申請をしなければならない。
- (8) 科目によっては上位学年特別単位修得制度として履修できないことがある。
- (9) 専門科目（選択）および関連科目の直上位学年に配分されている科目については学部事務室に問い合わせること。

3. 履修単位の上限について

各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業要件として修得すべき単位数について、次のように学期毎に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めている。（学則参照）
留意して履修申請を行い進級、卒業に必要な単位数を満たすこと。

年次	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
学期	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
単位	24	24	22	22	24	24	22	22	22	22	22	22

※通年科目の履修単位数は、春学期に算入して計算する。

(1) 履修科目の登録単位数の上限を超えて履修を認める場合

- ① 履修申請を行う学期の直前学期のGPAが3.0以上の場合は当該学期4単位まで、履修科目の登録単位数の上限を超えて科目の登録を認める場合がある。
- ② 編転入生は、履修科目の登録単位数の上限を超えて登録を認める。

(2) 履修科目の登録単位数の上限として、計算しない科目

- ① 卒業研究
- ② 卒業に必要な単位数に算入しない科目。（自由科目）
- ③ 学外での学習が単位として認められる科目。（学外実習、学外研修等）
- ④ 進級年度の履修科目のうち、過年度にF評価を受け、未修得となった科目。

(3) 留学（短期語学研修含む）の履修上限単位数については、別途定める。

Ⅶ 正規の履修から外れる場合

1. 再履修

履修申請をしたが単位を修得できなかった授業科目を、再び履修することを再履修という。再履修は、原則として、再履修のクラスを設けている場合は、そのクラスで受講すること。ただし、再履修科目が修得すべき他の科目と時間割上の配置が重なるなどの問題があるときには、規定外履修すること。規定外履修クラスの履修が困難な場合、時間割外履修を申請し、単位修得の方法について、担当教員の指示に従うこと。

2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外のクラスで受講せざるを得ない場合の履修を規定外履修という。

規定外履修をする場合は、予め学部事務室に相談すること。ただし、原則として1年次生の規定外履修は認めない。

Ⅷ 成績評価について

1. 成績評価の方法

学業成績は、試験（筆記・レポート等）及び授業時の小テストの結果、課題提出状況等をもとに総合的に評価する。授業科目ごとの成績評価方法は、シラバスに記載している。

なお、出席すべき授業時数の3分の1以上を欠席した者は、当該授業科目の修了認定を受けることはできない。ただし、病気又は正当な理由による長期欠席の場合には、特別に考慮されることがある。

2. 定期試験(本試験、追・再試験)および臨時試験

- (1) 試験は、定期試験（本試験、追・再試験）と臨時試験があり、定期試験は原則として学期末に実施する。
- (2) 試験時間割は掲示により周知する。
- (3) 追・再試験については事項以降に記載された内容を参照すること。
- (4) 本試験、追・再試験は原則としてそれぞれ1回のみ実施する。なお、これらを欠席した場合は、不合格となる。

3. 試験に関する通則

- (1) 試験時間割は掲示により通知する。
- (2) 試験場内では、すべて監督者の指示に従わなければならない。
- (3) 受験者は、試験開始10分前までに試験場に入らなければならない。
- (4) 試験開始後20分までは入室を許可し、受験を認める。
- (5) 受験者は、試験終了後、監督の指示があるまで退場することができない。

- (6) 受験者は、必ず学生証を机上の見やすい所に置く。
- (7) 試験場では、持込みを許されたもの以外は、カバンの中に入れてしまうこと。携帯電話やスマートフォン類をカバンにしまわず、身に付けていた場合は不正行為とみなす。
- (8) 試験場では、物品の貸借は一切許されない。
(ノート、参考書等の使用を許された場合には自分のものを使用すること)
- (9) 答案用紙には、必ず学籍番号、氏名を記入すること。答案用紙を場外に持ち出すことは許されない。
- (10) 受験者は、試験中監督者の許可を得ないで、試験場を出ることはできない。
- (11) 試験場内の座席は、監督者の指示に従うこと。
- (12) 不正行為をした者については、学則第 72 条により罰せられ、更にもその年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。
- (13) その期の授業料未納者は、受験は認めるが、単位の認定はされない。
- (14) 病気、事故その他正当な事由によって受験できなかった者は、欠席届に詳細な理由を記し、保証人連署のうえ、病気の場合は診断書、事故等の場合はその旨を証明する書類を添付して、原則試験日から 4 日以内に科目担当者または学部事務室に提出すること。

4. 追試験

- (1) 定期試験（本試験）を、病気その他やむを得ない事情により受験できなかった者は、追試験を受けることができる。
- (2) 追試験を希望する者は、正当な理由を証明する書面をもって速やかに学部事務室に届け出ること。
- (3) 追試験は、成績通知書の評価欄に「T」の表示がある科目が対象となる。
- (4) 追試験は、履修（再履修を含む）した年度の学期末に限り受験することができる。
- (5) 追試験は、原則として学期末に 1 回実施する。
- (6) 追試験を受験する者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。
- (7) 追試験の受験料は、1 科目につき 200 円である。

5. 再試験

- (1) 定期試験（本試験）の結果、不合格となった授業科目のある者は、当該授業科目の担当教員が再試験を行う場合、受験することができる。授業科目によっては再試験を行わない場合もある。
- (2) 再試験は、成績通知書の評価欄に「F」の表示がある科目が対象となる。ただし、追試験を受験し、不合格となった者は再試験の受験対象とはならない。
- (3) 再試験は、履修（再履修を含む）した年度の学期末に限り受験することができる。
- (4) 再試験は、原則として学期末に 1 回実施する。

- (5) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。
- (6) 再試験の受験料は、1科目につき1,000円である。

6. 論文試験(レポート)

- (1) 論文提出によって試験に代えることがある。
- (2) 追試験もしくは再試験として評価する場合は、上記のそれぞれの手続は必要である。

7. 試験における不正行為の懲戒について

- (1) 試験における不正行為は厳正に処分する。
- (2) 本書「城西大学 学内試験等における不正行為の取り扱い指針」を参照すること。

IX 成績発表

- 1. 成績発表は、Web成績照会システムを用いて行う。開示期間中に指定URLにアクセスし、確認すること。成績の評価は、下記X GPAについての「GPの基準」を参照のこと。
- 2. 単位を修得した科目の再評価は行わない。
- 3. 成績についての疑問、質問などは早急に学部事務室に問合せること。

X GPAについて

本学では、「GPA (Grade Point Average)」制度を導入している。以下に示すことを十分理解しておくこと。

1. GPAの意味

- (1) GPAの値とは、自分の成績を数値化したものである。学期毎や学年毎のGPAと入学からの通算のGPAを比較することで、自らの学習成果の推移を知ることができる。
- (2) GPAの値には、T評価、F評価およびZ評価を受けた科目についても計算に組み入れられる。したがって、安易に考えて開講期間の半ばで授業参加をやめた場合などは低い値となる。

2. GPAの計算

「GPA」は、下記の基準に基づいて評価した成績のGP (Grade Point) に各科目の単位数を掛けて合計し、履修登録した科目の単位数の合計で割った1単位あたりのGP平均値 (Average) である。仮に、履修した科目の成績がすべて「S」評価の場合はGPAの数値は4になり、すべての成績が「C」の場合は1となる。

「GPの基準」

成績評価 (表示)	成績評価基準		合否等/単位修得状況		GP
S	特に優れた学修成果を達成できている	100～90点	合格	単位修得	4
A	期待される学修成果を達成できている	89～80点		単位修得	3
B	期待される学修成果を概ね達成できている	79～70点		単位修得	2
C	期待される学修成果を最低限達成できている	69～60点		単位修得	1
F	期待される学修成果を達成できていない	59点以下	不合格	単位未修得 (再試験を行う場合は 受験資格あり)	0
T	正当な理由により、定期試験の受験等ができなかったため、学修成果の判定ができない		不合格	単位未修得 (追試験の受験資格がある)	0
Z	学則に定める授業出席時数を満たしていないため、学修成果の判定をしない		失格	単位未修得	0
P	合否のみで判定する科目で、期待される学修成果を達成できている		合格	単位修得	対象外
Q	合否のみで判定する科目で、期待される学修成果を達成できていない		不合格	単位未修得 (再試験を行う場合は 受験資格がある)	対象外
N	認定科目		単位認定	単位修得	対象外

[GP×当該科目の単位数] の合計

$$\text{GPA} = \frac{\text{[GP} \times \text{当該科目の単位数] の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計 (T評価、F評価、Z評価科目を含む)}}$$

(注) 不合格となった科目を次年度以降に再履修して合格した場合には、成績は上書きされ、過去の不合格の成績は、GPA計算式に算入されない。

(注) GPA計算式に算入されない科目もある。

XI 薬剤師国家試験

試験方法・内容などの詳細については、厚生労働省からの連絡を待つて通知する。

XII 薬学部薬学科における卒業後に取得可能な主な資格

薬剤師（国家試験受験資格）	薬局の開設者・管理者
麻薬管理者	薬事監視員
作業環境測定士	医薬品配置販売業
食品衛生監視員	食品衛生管理者
環境計量士	危険物取扱者

【薬剤師であれば従事できる業務】

化粧品製造所の責任技術者	麻薬輸入業の管理者
医薬品販売業の管理者	医療機器責任技術者
麻薬製造業の管理者	医薬品製造業の管理者

※資格取得の条件、受験資格、申請方法については資格によって異なるため、各自で調べること。

XIII 病院実習・薬局実習について

実務実習（対応する科目は「病院実習」「薬局実習」：5年次に実施）については、原則として「病院・薬局実務実習関東地区調整機構」を介して協力施設に依頼して実施する。

学生が、実際に患者がいる実務施設で、間違いなく、かつ、高い質を保ちながら実務実習を行うために、学生は実習に必要な基本的な知識・技能・態度を修得していることが必要である。また、薬剤師でないものが実務施設で実習を行うために、実習前に共用試験【コンピュータ試験（CBT）および客観的臨床能力試験（OSCE）】に合格しなければならない。さらに、実務実習に先だって、学内において実務実習に対応した学習（対応科目「臨床実習前講義A、B、臨床前実習A、B」）を行う。

(1) コンピュータ試験（CBT：Computer Based Testing）

実務実習の開始前に学生の実務実習に必要な基本的な知識を主に評価するものである。学内のコンピュータを使用して、実施する。

(2) 客観的臨床能力試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）

実務実習の開始前に学生の実務実習に必要な技能・態度を主に評価するものであり、模擬患者にどのように接するか、また、調剤を正しく実施するか、などを教員及び外部評価者（薬剤師）が評価する。なお、本試験は本学で実施する。

(3) 学内実務実習事前学習

実務実習に先立って、病院および薬局における調剤・製剤、患者応対などを模擬体験するため、学内において実務実習に対応した模擬実習を行う。